

学びの実感

ことばのちからは 生きる力

面積の求め方を考えよう

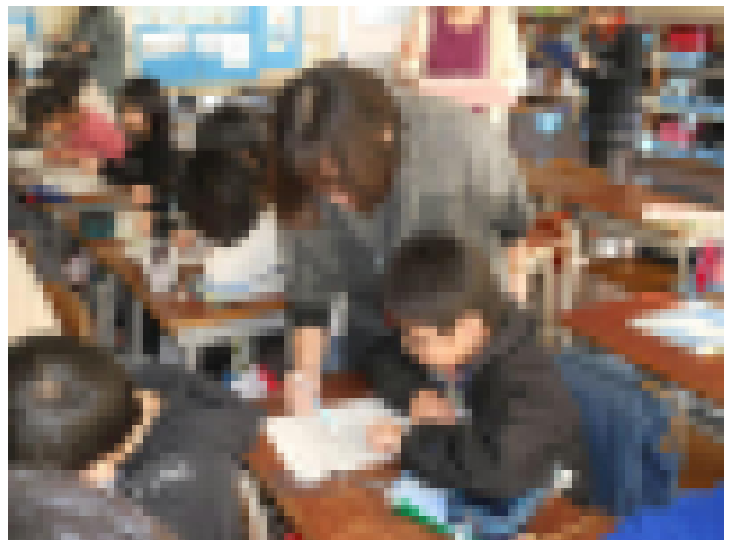
- ◎12月9日、校外学習の前日で忙しいにもかかわらず、学年部の授業実践をしてしてくださいました。
今回の授業の中で、以下のような声掛け等を積極的に行っていました。
- 指導過程の1番目、平宇高四辺形の等積変形をした際、底辺にあたる部分のちがいに目を向けさせました。
- 学習課題を示した後に、分からない文言がないか確認しました。
- 見通しをもたせる際に、困っている子供たちにヒントを出していました。
- 「底辺」と「高さ」の位置関係を「これでもか！」というほどしっかりと確認していました。
- 課題のリレーを受け「ペア学習の際の“相互評価”」と適応問題に取り組み「児童の理解度の確認」をしていました。



【事後検討会】

〈自評〉

- ・指導案の検討時間も不十分だったので、少人数と進度は合わせて取り組んでみました。
- ・少人数の半分で事前授業に取り組み、残り半分で本時の授業をしました。
- ・事前も、本番も時間が足りなくなりそうでした。時間的な配慮で2時間目を見てもらいました。
- ・前時の取組みで、子供たちがどのような反応を見せるのか分かっていたので取り組みやすかったです。事前授業の大切さが改めて分かりました。
- ・公式についての言葉は出るだろうと思っていた。なぜそうなるのかの説明が難しいだろうと思っていました。「たて×よこ」だから「底辺×高さ」になるぐらいで終わるだろうと思っていた。説明ができるできないはべつにして、今回の授業にトライしてみました。
- ・子供たちが今後、説明の仕方ができるようにして6年生に進級させたいです。
- ・前時の流れを受け、既習事項を生かし新しいことを理解させる、という流れを考えました。
- ・パソコンも導入してみました。前時では底辺がたてになる部分をしなかったもので、一緒に教えることにしました。時間をかけて説明してみました。
- ・つまずきはあったものの、「底辺×高さ」なのか「高さ×底辺」なのか、公式について



てしっかりと教えていきたい。発表の部分は難しかった。

- 時間が不足し、応用問題ができなかった。適応問題の1問のみであった。子供たちに説明させる時間はなかったが、理解は出来ていたと思う。
- 話しすぎると焦点がぼける。教師の発言の精選は必要であった。
- 子供たち自身の位置関係が難しかったように思う。底辺は、いつも下にあるわけではないと言ったことを理解させたかった。



〈参観者から〉

- デジタル教材はとても効果的であった。垂直は意識できていた。高さの確認の時、図形を回転させるともっとよかったと思う。
- 底辺が決まると高さが決まるということをより意識できるようにした方が良かった。
- 「どの場所でも高さである」というところで、子供たちのまよいがあった。長さを測りながら考えさせると良かったのかも…。
- 底辺と高さを考えると「垂直だから高さになる」や「図形の外にあっても同じ長さだから高さになる」という理解が大切であろう。
- 図形を切り右か左に動かす時に、十分に時間を取っていたが、これからの授業に必要な

間を取っていたが、これからの授業に必要な
の強調したりしながら取り組んでも良かったのでは…。

- 公式を考える取組は初めてだったと思います。かなり難易度が高かったのかも知れません。
- 発問が難しかったかも知れません。子供たちは頑張っていたけれど…。スモールステップが入っても…。
- 問題解決型になっていてよかったと思います。平行四辺形一発で求めることができる方法を考えることは無駄ではない。良い取組みだったと思います。
- 子供たち自身が考える時、数学用語はあるがそれは気にせず、子供たちなりの考えで公式を考え出し、後から公式を教えるという方法もおもしろいと思います。
- 底辺に対して垂直になっているものを意識させることはよかったと思います。
- 図形の高さを書く時に斜め線を入れ、垂直かそうではないかを視覚的にとらえられると、下位群の子供たちにも理解が出来たように思います。視覚に訴えることができるのでデジタル教材は効果的だと思いました。

【課題のリレー】

(有効・・・○ 課題・・・●)

○有効利用できた！少人数指導体制だからこそできる「事前授業」からの教師の学習の大切さ。

●適応問題、応用問題に取り組むための時間配分。

次回の研究授業は…

12月13日(金) 3年2組 庄子学級

「小数のいろいろな表し方」です

みんなで見合って研修を深めましょう。